○　事業の記録

1、パイロット事業の決定

２００５年6月１日付け「平成１７年度協働パイロット事業委託業務公開プレゼンテーション（審査会）について」と題する静岡市民生局市民生活部市民生活課長名の文書が、「タバコと健康の会・静岡」あてに届いた。

これは、日頃の市民活動の推進にご理解・ご協力へのお礼と、この協働パイロット事業への応募が課題別部門２団体、自由部門１３団体があり、６月１８日に公開プレゼンテーション（審査会）があるので、６月６日の抽選会に参集するようにとの連絡であった。

このパイロット事業に当会が応募した理由は、ここ数年、花村会員が県下の高校、中学校、小学校からの「喫煙防止講演」の依頼を受けて講演してきたが、静岡県都の静岡市内の学校からの講演依頼がほとんど無かったことと、近年、喫煙が低年齢化していて、依頼が主として小・中学校からきていることであった。

２００５年6月３、４日の２日間、一般市民向け禁煙相談会を静岡市　中町ビルで開催したが、思ったほどの市民の相談はなかった。実は、２００５年1月１６日の私たちの新年会で、本年度の事業で何をするかが話題になったとき、花村会員が行なってきた「小・中学生向けの喫煙防止講演会」の優秀さがあがり、それで、喫煙防止教育を静岡市内の小・中学生に向けることにした。その後、この協働パイロット事業計画を知り応募したのである。

6月１４日の定例世話人会で、6月１８日の公開プレゼンテーションに如何に臨むか、相談をした。事前に花村一男会員に原案を準備してもらい、桜井祥代会員から適切なアドバイスをうけて、申請書を作成して提出した。

6月１４日、清水区役所において、花村会員が５分間の適切なプレゼンテーションを行い、５人の審査委員からの質問に的確に答え応募した課題部門の１つに合格して採用された。この審査には、その他の世話人６名も参加してプレゼンテーションを見守った。

6月２７日、静岡市役所市民生活課で、私たち世話人は宮城島氏より説明を受けた。健康づくり推進課より、望月万里氏他３名が出席した。

6月３０日、タバコと健康の会・静岡の臨時世話人会において仕様書を検討した。

7月５日、市役所市民生活課で、宮城島氏より「喫煙防止講演」事業の進め方についての試案が提示され、説明を受けた。

7月１２日、市役所市民生活課で、事業計画について相談。夜、タバコと健康の会・静岡の定例世話人会で仕様書（案）を作成し翌日、市民生活課へ提出。世話人が分担して、市内の小・中学校へ電話して、喫煙防止講演について申し入れる活動を７～８月に行なうことを相談。

7月４日、静岡市子ども会世話人会、7月１１日、静岡市子ども会世話人連合会の２回にわたって、市社協において、３０分～４５分程度、「喫煙防止講演とは、どのようなものであるか」というプレゼンテーション（啓発活動）を行なった。

2、講演会の実施計画、準備

（1）　当初の計画

7月５日の市民生活課、健康づくり推進課と当会との打ち合わせで、

①「小・中学生向けの喫煙防止講演」ータバコ喫煙の低年齢化を防止するためーを７～１２月の期間に実施することが正式に決定した。

②事業内容として、目標が、啓発活動１５回、研修会２回、講演会１０回、計２７回が設定された。（小・中学校、子ども会、PTA、その他の団体を対象とする。）

③実効ある講演達成のための機材（プロジェクター、スクリーンなど）と支援者の設定。

しかしながら、期間が７月から１２月は、学校の年中行事がすでに始まっており、夏休みを目前にして、目標達成はかなりの困難が予想された。

（２） 計画達成のための啓発活動（プレゼンテーション）

(ア) ７月１２日付き、市民生活課、健康づくり推進課より、市内１２６校の小・中学校校長宛の文書「児童・生徒向け喫煙防止講演会について（依頼）」が出された。同時に市教育委員会への依頼が出された。

(イ) 当会は、市内全小・中学校の一覧表から小学校を優先的にリストアップして、世話人６名で地域的に分担し、各学校を訪問して講演依頼を取り付けるという計画を立てた。

(ウ) 植山の提案で、市作成の依頼文・実施要綱・平成１６年当会実施の「小・中学校講演活動の一覧表」に講演風景の写真のカラーコピーを添付し、加えて「勧誘成功のための具体的マニュアル」を作成し、各世話人は、これを持参して学校に出かけていきプレゼンテーションを開始した。

(エ) 夏休みが近づき日程的に苦しい状況が続いた。植山は７月１４日～２７日の間に１８校を訪問して、校長、教頭、養護教諭などに面会し依頼文や諸資料を使って講演会の優れた点をPRした。各世話人も同様に奮闘したが、なかなか成果が上がらない。

３、講演申し込みの推移と実施状況

結局、世話人６名で計５４校の小学校を訪問することができた。

夏休みの８月９日～３１日の間に安倍川西側の小学校８校を香川世話人と訪問する。

○ ８月１０日までに、小学校８校、中学校２校の計１０校から講演の申し込み。

○ ９月９日までに、小学校１３校、中学校３校の計１６校から講演の申し込み。
ようやく努力の成果がでてきたようで、市の依頼通知文による申し込み（６校）も増えてきた。今一息のプッシュ。

○ ９月１４日付け、植山は訪問した小学校を中心に、未申し込み学校２０校に、Faxで、依頼文・資料を再度送付して残り枠が少なくなった旨を述べ、至急の申し込みを勧誘した。

○ １０月１１日までの申し込みは、小学校２０校２３回、中学校４校、市子連１回の計２８回の申し込み。
あまりにも多い申し込みに断ったらどうか、という意見も出たが、花村世話人の「来るもの拒まず」の熱意が貫かれた。
当会によるプレゼンテーションによる申し込みが１８件、市の依頼通知文による申し

込みが１０件であった。

申し込み講演が増える度に、また支援者の都合により、支援者分担の変更を数度行なった。花村世話人は、事業外の講演も引き受けていたので、１日２回の講演を違う学校で行なうなど、多忙でした。

４、講演内容の検討と改定

初回（９月６日）の大里東小学校の講演内容を検討した結果、９月１４日に問題点・改善案を植山から、花村、林、久保田、香川の世話人に提案し、その後、いろいろ議論の結果、花村会員は修正を加えて現在の内容になった。つきつめれば、４５分ほどの授業時間では、全内容を網羅するのは難しく、時間内でいかに効果的に受講者を感銘させるかがポイントであろう。午後の最終授業では時間延長できるのでベストである。

内容については、各回の報告で述べたように、児童にわかりやすい腹話術・映像・タバコ病の擬似体験による花村世話人独自の構成は絶妙で大好評であった。

（1） 9月6日　大里東小学校における喫煙防止講演をみて

対象：5年、6年生１０９人、教職員４人

補助者：植山　利彦、打田　咲

時間配分	ねらい	内容	教材	改善と留意点
5分	子どもたちのタバコへの興味関心を知る	興味があるか、吸わないと心に決めているか、まだ未確定か、喫煙経験の有無などを挙手で答えてもらう	講演教材 ノートパソコン プロジェクタースクリーン（小さい！） 腹話術のケンちゃんは低学年に好評！	司会の挨拶紹介、児童の挨拶などで5分はかかる！ 学校の機械ではパソコンにマッチしない場合がある！
10分	タバコについて考える。	タバコを吸うことは得か損か。お金（家計）、体、心への影響を考える	筆記用具	
10分	タバコの害を知る。	タバコの害、毒性。 受動喫煙の害、スポーツ母性、胎児、美容などへのダメージを知る。	双生児の写真	回覧には時間がかかる！ 集中力を欠く。
10分	タバコで起こる病気の擬似体験	肺気腫：進行性の苦痛をストローで呼吸したり、呼吸をとめて患者の苦痛を体感する。 脳血管障害：片麻痺による不自由さを、利き手でない手で書いて体験。片方の手で靴下を脱ぐ/はく。利き手とそうでない手で箸を使い、消しゴムを摘み、能力差を体感する。 喉頭がん：声のないコミュニケーション体験。手術後の生活上の制約などを知る。	児童用教材 ストロー、箸 スポンジ	補助者が前でデモンストレーション！ 深呼吸は手を大きく挙げる。 ストローは真ん中を直角に曲げる。 スポンジは回覧せず、補助者が示す。 二人１組の生徒グループを作り、一方の子が自分の好みの色（食べ物）を口を使わず、手振り身振りで伝える。これを交代して行なう。

5分	再び最初の質問をして、タバコへの認識の変化を挙手により確認する。 質疑応答。	（総評） ① 時間４５分を厳守。次の授業に支障！ ② 最初の紹介などで５分かかり、正味４０分 ③ タバコの害の所で、退屈して集中が切れた児童あり。 ④ 双子の写真、タバコの花、スポンジの配布に時間がかかり、集中が欠ける。 ⑤ 補助者がデモンストレーションで効果 ⑥ ビデオ学習は、さっと流した方がよい。見ればわかる。 ⑦ 擬似体験は効果的である。 ⑧ 質問コーナーは、５分ほど最後にとる。 ⑨ 低学年ほど、飽きないようにスピーディに！ 全体として、なかなか良い講演会でした。さらに流れるように、短めにすれば、児童の興味が続き、集中力がつく。

（2） 9月１７日　宮竹小学校における喫煙防止講演

対象：５年生１０５人、教職員６人、保護者５０人

補助者：　望月万里　林弘文

植山さん、打田さんより１時間前に会場に行くように言われて、９時半に現地到着。健康づくり推進室の望月万里さんが到着。二人で応接室に待機。１０時を過ぎてから「すでに花村さんが２階の会場で、機器をセット完了した」との伝言。この日、宮竹小学校では、土曜日のため、いろいろなイベントがあり、たくさんの生徒、父母が校内に来ていて、事務係りは会場を知らなかったようだ。

１０：３５　会場で先生の説明、講師、補助者の紹介があり、時間通り講演開始。

花村さんによる健康けんちゃんを使った腹話術で質問が始まる。

（1）大人になったらタバコを吸おうと思っている人は？　少数の子が手を挙げる。

（2）タバコは絶対に吸わないと思っている人は？　大勢の子が手を挙げる。

（3）迷っている人は？　かなりの子が手を挙げる。

花村さんの話が順調に進む。生徒たちと多くの父母、先生が熱心に講演を聴いている。

１１：００　ビデオで赤ちゃんの映像。

「これから喉頭がん、肺気腫の病気になったら、どのように困るか、不便を体験してもらう」との花村さんの説明に生徒たちは驚きの悲鳴をあげる。

１１：１０　「あと１０分」の紙を花村さんに見せる。

１１：１３　擬似体験の実験おわり。手術場面の映像に、生徒たちは悲鳴をあげる。

女の先生がカメラで、スクリーンの映像を写している。肺がんの映像が終わったところ

で、「時間です」と書いた紙を花村さんに見せる。花村さんが「まだ見せたい手術場面があるが、時間がきたので終わります」と言うと、生徒たちから「まだ見たい」の声が一斉にあがる。

最後にもう一度、最初と同じ質問をしたら、ほとんどの生徒が「大人になっても吸わない人」に手を挙げた。「まだわからない」という子が１人ほどいた。

女の先生が「このあとすぐに父母参観があります。」と言い、講演終了の挨拶をされた。

時間通りに講演ができた。生徒たちは大変興味をもって講演を聴いていた。

講演後「　お父さんがタバコを吸いながら、咳き込む」と声をかけてきた子がいた。

（3）　１０月３日　　藁科中学校における喫煙防止講演

対象：全生徒８８人、教職員１２人、保護者１人

補助者：久保田良夫

講演は順調に終わり、生徒は真剣に最後まで聴いていた。生徒に対する最後の質問に「こんな悪いものを国はどうして売っているのか」との鋭い質問があった。

生徒のほとんどはが、「大人になってもタバコを吸わない」との意見であった。

校庭にいる二人の母親に「映像はどうでしたか」と聞くと、「少しきつかった」という返事であった。

（4）、（5）１０月５日　清水飯田小学校における喫煙講演

対象：１～３年生３８１人、教職員１４人、保護者７人、他１人

対象：４～６年生３５５人、同上　１７人、同上　５人

補助者：林　弘文

同じ学校で、午前中に２回の講演があるため、午前７時半、花村さんの車で拾っていただいて出発した。花村さんのカーナビゲーションでも、飯田小学校の入口がわからず、しばらく迷った。道路が整備されていない感じです。川口養護教諭の案内で講堂に直行。ここで昔の卒業生の鈴木教諭と付属養護学校で一緒だった望月教諭に再会した。

装置を講堂に運び、校長室に挨拶に伺う。教頭、教務主任、養護教諭が対応。講堂には設備がなく、花村さんが運んできた機器をセット。

９：２５　低学年対象の講演開始。花村さんの使う用語が、児童には難しいのではないか気になる。

たとえば、ニコチンいぞんしょう、ふくりゅうえん、しゅりゅうえん、いっさんかたんそ、せいたい、はいきしゅ、など次々と飛び出す単語に児童がついていけるかどうか。

２５０×２×３６５（８０－１５）の数式は難しいのではないか。気になり聴講した保護者（５，６人）の一人に感想を聞くと、「よかった」と印象を語ってくれた。

ここででた生徒の質問は「先生はタバコを吸ったことがありますか」であった。子どもたちは熱心に聴いていたし、いろいろ反応していた。

１０：３５　高学年対象の講演開始

こちらは安心して聴くことができた。もう大人の話ができる位の学年であるから、た

ぶん花村さんの言葉はほとんど理解できたと思う。
高学年では、「はいきしゅ」の表示より「肺気腫」、「いっさんかたんそ」より「一酸化炭素」、「ふくりゅうえん」より「副流煙」の表示がよいのではないか。花村さんがそれを発音しているから、漢字の表記がよいのではないかと思った。あるいは「ルビ」を付けてもよい。
低学年用と高学年用の２つのパワーポイントのバージョンを用意するとよいと思った。
講演の最後で、「喫煙したい人は？」の問いかけに、低学年とちがって、手を挙げる生徒はいなかった。
講演については、対応された先生方は「大変良い」という評価であり、ほとんどの先生が聴講したと思われる。
講演後、校長室でお茶をよばれているとき、女の校長先生が現れ、挨拶をした。
生徒数が８００名を越えると、養護教諭が２名になるが、飯田小学校は７００名程度なので、養護教諭は１名ということであった。

（6）　１０月６日　　大里西小学校における喫煙防止講演
対象：４～６年生４３４人、教職員２１人、保護者１０人
補助者：植山利彦　久保田良夫
学校保健委員会によるタバコに関するアンケート発表と寸劇があり、講演が行なわれた。

（7）　１０月１６日　　静岡市子ども世話人連合会における喫煙防止講演（静岡市中央体育館）
対象：静岡市子ども世話人連合会（市子連）の大人と子ども２３名
補助者：望月万里　林　弘文
静岡市中央体育館内の小さな部屋が会場のため、花村さんの講演は、参加者一人一人の顔を見ながら話しかけるような調子の講演であった。
「タバコを吸ったことのある人は？」の質問に一人の女の子が手をあげ、「苦しかった」と答え、うちとけた会話が弾む。１時間の講演時間で余裕があり、手術の映像前に、花村さんが「見たくない子は下を向いていても結構です。」と話すが、５人の女の子全員は熱心に見ている。悲鳴をあげる子はいなかった。
最後に質問を求めると「そんなに身体に悪いタバコがなぜうられるのか」という質問がでて、花村さんは丁寧に答えていた。
主催者の一人が最後の挨拶において、「自分はタバコを吸うが、今日学んだタバコの害について家に帰って、家族のみなさんに話してください。」と結んだ。
最後に、花村さん作詞、作曲、歌の「タバコちゃん」をテープで流してもらったが、後の部分り、最初の出だしの歌詞が明瞭でよいと思った。

（8）　１０月２４日　　麻機小学校における喫煙防止講演
対象：５，６年生１２４人、教職員１０人、他（薬剤師）２人
補助者：久保田良夫
秋山 PTA 会長兼薬剤師と学校薬剤師が臨席。
生徒は最後までしっかり聞き入り、最後にタバコについて問うと、全員、将来絶対にタバコ

は吸わないとの返事であった。

（9）　１１月７日　　井川中学校における喫煙防止講演

対象：全生徒１５人、教職員１０人

補助者：林　弘文

朝１０時、NPO 活動センターから花村さんの車で出発。１２時ころ現地到着（途中で井川駅傍の店でしいたけ丼の昼食をとった。）。

午後１時半　講演開始。生徒数は１５名、若い先生９名の聴衆である。保護者の参加はゼロ。聞けば保護者のほとんどが喫煙者であるとか。一人の先生がカメラで講演風景を記録。

花村さんの講演は上々であったが、生徒からいろいろな質問が飛び出し、花村さんはたじたじ。花村さんは「小学校では、健康けんちゃんを使って、こうやって説明している。」と中学生相手の説明に徹していた。

講演に使うパワーポイントに、EU のタバコ包装紙に描かれているタバコの害表示を加えていた。

講演後の学校の都合を聞くと、掃除だけということなので、終了予定時刻を２０分オーバーして２時３５分に終了。

この学校は以前、現在の井川ダムの湖底にあったが、ダムができたため、現在の位置に移った。遠くの生徒は１３ｋｍも離れたところからスクールバスで通学していると聞いた。

（１０）　１１月９日　興津小学校における喫煙防止講演

対象：６年生１２８人、教職員５人

補助者：植山利彦

定刻１時間前に花村は小学校に到着。植山は１時間前に到着を目指したが、静清バイパス事故の影響で１３時１５分着。花村がいつも万一の事故を考慮して高速道路を使わない主義というのも理解できた。設営準備に時間がかかるが、当日は担当職員の塚本教諭が出張とのこと。体育館は今までになく明るいので、２階の１２枚のカーテンを閉めにまわる。

学校のプロジェクターも光源がやや弱いので、持参したものを使う。１４時　体育館のステージ上にスクリーンを載せ、下に講師の席、その前に１２７名の児童が立って先生の指示で挨拶をして床に座る。講演が始まる。

まず、人形、健康けんちゃんを使っての導入部。ついでパソコン利用のプロジェクター画といつも通りの進行。タバコ病の擬似体験は今回も、利き手でない手での「鉛筆書き」、「消しゴムを２本の鉛筆でつまむ」。片手での靴下はきとストローによる肺気腫の体験。A,B 組に分かれての言葉なしの好みの色、食べ物の当てっこ。児童たちが歓声をあげる。

この日は、この講演のあとに予定が入っていないとのことで、肺がんの手術場面など衝撃的映像をたっぷり披瀝し、児童の反応も大きい。

開演時、恒例により、最初の問いかけ「タバコを吸ったことのある人」、「タバコを吸ってみたい人」、「吸いたくない人」を児童に行い、手を挙げてもらう。終演時に同じ問いかけをすると、ほとんど全員が吸いたくないと反応するが、今日は一人だけが吸いたいと挙手し、びっくりした先生が駆けつけて児童に問いかける。

最初に「吸ってみたい」と挙手した児童２０人ほどを、先生は立たせ、一人ずつどうして

吸いたくなくなったかと、話をさせる。黒ずんで汚い、がんにかかった肺が印象的だったのか、今はやりの若者言葉で「あんなキモイ＝気持ち悪いのはいやだ」という２，３名の児童の言葉が面白い。「手術が怖い」、「人に迷惑をかけたくない」、「タバコよりベンツがいいに決まっている」など。

今回は、私がこれまで参加した２回の小学校にくらべて時間的余裕があって、たっぷりと内容が充実していた。残念なのは、この学校に喫煙される教員が３人いるが、３人とも出張して講演に立ち会えなかったことである。司会の先生が「６年生担任の喫煙先生によろしくね。」と児童に向けて冗談めいて言ったのが印象的でした。

終了後、講演を見学していた１１月２４日講演予定の興津中学校の三郷養護教諭と次回の打ち合わせを行なう。この講演はとても良かったとの評価の上で、要望として

① 時間の余裕がないので、擬似体験のうち、靴下の着脱（これは女生徒がソックスを接着止めーソックタッチをしているので）無理、A,B 組に分けての意思伝達を省略してほしい。

② 最初の５分間ほど、生徒のタバコの研究発表を行ないたい。

③ 映像はたっぷり。

があがった。

※ 中学生の時にはあまり使わず、小学生に人気の人形　健康けんちゃんも、腹話術でなくてもサポート役（補助者）が同行しているので、サポート役が人形を扱い、ハスキーな声でしゃべればよい！
サポート役をもっと活用して、効果と能率を上げれば！

帰途、興津清見寺前の魚屋で、花村会員推奨のキスのさつま揚げと生もずくを購入して静岡へもどった。　お疲れ様！

※ 宮竹小学校へ、喫煙防止講演会への感想文のお礼を出しました。

「９月１７日の講演会の感想文、たくさん送っていただき、当会世話人一同で読ませてもらいました。『タバコはもう吸わない！』、『家族の人にやめてもらいたい！』という皆さんの決意がよくわかり、世話人全員喜んでいます。この気持ちを大人になっても忘れず、タバコの無い社会に皆さんが元気で生きていくことを期待しています。感想文を有難う。」

（１１）　１１月１９日　千代田小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生　４０３人（予定数）、教職員、保護者（報告なし）

補助者：香川芳久　林　弘文

自転車で、打田宅に寄り、NPO 活動センターまで行き、北街道を通って千代田小学校に着いたのは１３時過ぎ。千代田小学校は、生徒数８５０名ほどの、市内でも５、６番目の大規模校。

土曜日の午後、講堂には全生徒、父母、先生方が集まって行事を行なっている最中。この行事の関係で、学校保健委員会主催の「たばこの害を考えよう」が始まったのは、低学年生徒が退席したあと。

４００名を越えているので、香川と林の２名が補助者として参加。聞けば、全体４５分間

のスケジュールは、生徒による寸劇、花村さんの講演、生徒の感想発表、校長先生のまとめの話からなり、花村さんの講演時間は正味３５分間。

生徒たちの寸劇は、下校途中の子どもたちが落ちているタバコを見つけ、吸ってみようかという子に、ほかの子どもたちが「だめ」という話。

花村さんの講演には、多くの母親が参加して聴講。後ろに回ってみるとスクリーンの画像が小さく見えるほどで、近眼、老眼の僕には見づらい。気づいたのは講演が始まった後なので残念。

時間が３５分間なので、少し省いて話したらどうかと思ったが、花村さんはいつもの調子で講演。内容を少しでも多く話そうとするため、間をとらないので平板な口調になっている。

高学年なので、「いっさんかたんそ」より「一酸化炭素」、「しゅりゅうえん」より「主流煙」など漢字表記がわかりやすいのではないか、表意文字の特徴を生かした方が良いのではと思った。

講演後、ある母親から「高校生の息子がいるが、高校でも講演していただけないか、そのようなバージョンがあるか」と訊かれた。

訊けば「時間的余裕がある」ということなので、花村さんへ時間表示はしなかったが、映像の直前になり校長が退席されたので、「しまった」と思ったが、ほどなく戻られたので、ほっとした。

講演後、生徒たちがマイクを持って感想を発表したが、花村さんの講演をよく聴いている発言であった。

最後に、中山校長がまとめの挨拶をされた。これは僕が参加した講演では初めての経験で、大変良かった。５分間ほどの話であったが、全生徒が静かに一言一言を聴いていた。さすがと感心したまとめであった。内容は、子どもが喫煙して悪い理由とあげた法律、未成年喫煙防止法をわかりやすく説明。最後に中国から伝来した故事、「五体は父母から受けたものだから、粗末にしてはいけない」という内容のものを話された。

終わって、校長室で中山校長先生と話をした。

（１２）　１１月２４日　興津中学校における喫煙防止講演

対象：全生徒３８０人、教職員２０人、保護者３人、他８人

補助者：久保田良夫　香川芳久

子どもたちは、講演を最初から最後までしっかり聴いていた。

擬似体験のあと、風のためカーテンが開き、映像がはっきりせず少し残念であった。

校長は用事で不参加、教頭が挨拶をした。タバコの害について、駄目押しとして「絶対にタバコを吸わないように」との話がほしかった。

（１３）１１月２５日　　清水第４中学校における喫煙防止講演

対象：３年生

補助者：林　弘文

花村さんの車に乗せてもらい、家を１１時４５分発。会場で装置をセット、機器の調子はOK、

カウンセラー室で、柴田校長先生、菅原養護教諭と話す。

午後１時半　薬学講座開始。菅原養護教諭のわかりやすい説明。１年生では、タバコについて学んだこと。今、喫煙の低年齢化が進んでいること。講師と補助者の紹介。花村さんが喫煙防止活動を始めた理由と静聴を要請する。

午後１時４０分　　花村さんの講演開始。

「気づきサトル君と止せばヨイ子ちゃん」の装置の説明。人形　健康けんちゃんを見せて、小学校の講演で使っていることを説明。生徒たちは興味をもって反応。

パワーポイントで画面に、２５０円×２箱×３６５日（８０－１５）年＝￥１１，８６２，０００と、単位の入った数字がでる。これはわかる。（従来は、単に単位のない数式をみせて、これは何か、と生徒に問いかけていたが、答える生徒はいなかった。講演時間の節約になる。）

次の画面には、「WHO 世界保健機関」とでて、この組織は世界の人々の健康を守る働きをしていと説明。その機関が「タバコ喫煙は、予防可能な単一で最大の死亡原因だ」と断定していると説明。このような説明は、生徒たちを小学生たちとは違って大人扱いをしているという印象を生徒たちに与えてよいと思う。

生徒たちは熱心に聴いている。感心したことは生徒たちが、熱心にノートを取っている姿であった。体育館の床に座った姿勢で書くのは、書きづらそうであった。さらに映像を見やすくするためカーテンを半分だけかけているので、少し明るさが欠けて見づらい面がある。筆記するのに良い状態ではない。これは改善の必要がある。

「世界ではタバコが原因の年間死亡数が５００万人、日本人では１１万４０００人。これに対して日本の交通事故での年間死亡者は７，７００人（警察調べ）・・・」と画面にでる。生徒たちはこれらの貴重なデータを筆記しているようであるが、画面が早く変わるので気の毒だ。

花村さんの話はゆっくりしているので、生徒たちにはわかりやすいと思った。

アメリカの青年の話。１３歳で喫煙開始して１７歳で喉頭がんなどの病気になり、何回も手術をして、今はアメリカ全土を行脚して「タバコの害を訴える」活動をしている話は、生徒たちに身近に思えるのではないかと思った。

１１月８日の静岡新聞の見出し「喫煙は病気」の記事。喫煙は趣味、嗜好ではなく、「タバコは依存性麻薬である」など明快に説明。

ニコチン依存猿の映像では、花村さんは２分ほど沈黙して、機械の説明を生徒たちに聴かせる。生徒たちはしーんとして聴いている。

講演の最後に、花村さんは「賢い選択は、生涯無煙であること。話を静かに聴いていただいて有難う。」と結んだ。講演は午後２時半に終わり、一人の生徒が「僕のお父さんは１日３箱吸っている。大丈夫でしょうか」という心配の質問をし、花村さんはそれに丁寧に答えていた。

午後２時３５分終了。

（１４）１１月２８日　服織小学校における喫煙防止講演

対象：５，６年生３５０人、教職員１５人、保護者３人、他（民生委員）５名

補助者：香川芳久　久保田良夫

映像のとき、ずっと下を向いていた子に後で「気持ちが悪かった？」と訊いてみたが、おとなしい子のためか、何も言わなかった。生徒たちはみんな率直に聴き入っていた。

（１５）、（１６）１１月３０日　長田東小学校における喫煙防止講演

対象：１～３年生

対象：４～６年生

両方の生徒数１０２４人、教職員４０人、保護者１３人

補助者：香川芳久　林弘文

講演は低学年と高学年の２回になり、人数がともに５００名の規模のため補助者は２名になりました。この講演会は学校保健委員会の行事で、体育館が会場でした。

９時３０分　低学年の部　最初に校長先生の挨拶がある。１０数名の教員、７，８名の保護者

９時３５分　花村さんの講演開始。喫煙によるタールで肺がよごれる装置を見せる。

「女の子、よせばヨイ子ちゃんは一日３０本のタバコを吸っているので、肺がこのボトルの水のようによごれる。」

人形「健康けんちゃん」を使った腹話術で「大きくなったらタバコを吸ってみたい子は手を挙げて」に、数名の子が手を挙げる。「迷っている子は手をあげて」には少数の子が手を挙げる。ほかの子どもたちは、身を乗り出して手をあげた子どもたちを見る。

２５歳のアメリカ青年の映像。１３歳で喫煙を開始して１７歳で喉頭がんになり、手術を３０回も受けた結果、アメリカ全土を「タバコを吸わないで」と話して回っているとの説明がされるが、５００名ほどの生徒のうしろの方では見づらい。

全体の印象として、花村さんの話は用意したすべての知識を子どもに与えようとしているため、少し平板的になっている感じ。１，２年生の子どもには難しいのでは、という印象。座ってストーリを読み上げている感じなので、補助者が機械の操作をして、花村さんは全体の中央にでて、生徒たち全員の様子を見ながら、手振り身振りを入れてメリハリをつけた会話調の講演がよいのではないかと思った。

静岡新聞の記事「喫煙は病気」は、見にくいので省略した方がよい。少し早口になっているので、低学年の生徒が話についていくのが困難ではないか。時間的にも余裕がないので、話の内容をしぼった方がよい。

ニコチン依存症になった喫煙猿の場面では、全体がしーんとして聴いている。「タバコは殺人物質」の画面は低学年でははずした方がよいのでは。

喫煙者と非喫煙者の比較した生存グラフも低学年には、縦軸が何で、横軸が何であるか、すぐには理解しにくいので、これも言葉だけで説明すればよいのではないか。

脳血管障害、肺気腫、喉頭がん、などのききなれない専門用語がぼんぼん飛び出す話は難しいので、頭、肺、のどなどの言葉を使った方がよいのでは。（講演後、３年生の子に訊くと、脳、肺は習ったとか）。のどに手をあてさせて声を出させ、「これが声帯ですよ」と説明しているのには大変感心した。

いくつかの場面で、花村さんが質問を発して、それに子どもたちが反応しているのに、それらが聞こえないのか、次の話に移っていった。途中で「もっとゆっくり話して」とお願いした。

最後に「一生、タバコを吸わないと思う人は？」には、みんな挙手して声をあげて終わった。終わって聴講した校長に感想をきくと、「少し難しい」との返事であった。

１０時５０分　　高学年の部　　１０数名の教員、７，８名のお母さんたち

校長先生の挨拶「自分はタバコを吸わない。新幹線に乗ったとき、喫煙車の３号を通るとき、タバコの煙で、うっーとなった。」などの具体的な話。

花村さんが中央にでて腹話術、みんな静かに聴いている。「タバコを吸うと無駄と思う人？」には、多くの生徒が「はい」と力強く答えがかえってきた。

講演後、坂田さんという女の子が、花村さんの前に立ち、はっきりした声でお礼の挨拶。お礼は用意したものではなく、花村さんの話の内容を織り込みながら「勉強できました」との挨拶。

「これで、学校保健委員会を終わりましょう」と全員、唱和して終わる。

帰る車の中で、花村さんにきくと、今朝の２時すぎまで時間をかけて準備したとか。本当にご苦労さまでした。

（１７）　１２月１日　安西小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生１２５人、教職員１２人、保護者１４人

補助者：打田　咲

会場は体育館。

はじめに学校保健委員の生徒が、研究発表を１０分くらい行ないました。パソコンを使い、漫画を入れ、とてもよく出来ていました。養護の先生の指導が良く行き届いていると思われます。

この発表をうけて、講演は３０分の持ち時間で動画と擬似体験をうまくつなげていました。手術の画面は、われわれは慣れているものの、初めての子どもの中には、手で顔をふさいで垣間見ている子もいた。 保健委員の親と PTA の会長さんが１０人あまり後ろで聴いていた。終了後、会長さんが胸のこの辺が痛くなったと言っていました。彼は SMOKER です。３０分という時間は短いのです。

校長は、大人（PTA,教職員、地域の町内会の人々）にも広げて見てもらい、地域ぐるみの運動になるいいと話していました。

（１８）　１２月１日　船越小学校における喫煙防止講演

対象：５，６年生２０７人、教職員１０人、保護者１５人、他２人

補助者：久保田良夫

保護者が１５名聴講。

時間の延長も可とのことで、１０分延ばせたので十分説明ができた。擬似体験にも皆は真面目に行動しており、非常に感銘を受けた。擬似体験には、市川校長もその方法、成果に強く感銘を受けていた。畑養護教諭も、花村さんの小学生向けのくだいた言葉使いに感心していた。

（１９）　１２月２日　城北小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生２４９人、教職員１５人、保護者２人

補助者：小長谷　香川芳久　林　弘文

午前１１時５５分、池田の自宅を出発。地図をみると城北小学校は静清バイパスの傍、遠いので早めに出発したが、時間の余裕があり途中で食事。１２時４５分、学校に到着。控室で、和田校長先生と話をする。先生の話では、この学校、県立総合病院、県環境衛生研究所

は、もと農業試験場の跡地。

午後２時、４～６年生３９０人が体育館に入る。健康づくり推進室の小長谷さんが同席。香川さんと手伝う。学校保健委員の生徒たちがマイクを使っての事前訓練をしている。

午後２時５分　学校保健委員の生徒３人がマイクの前に立って「学校保健委員会を開きます。」と開会の挨拶、つづいて生徒全員に対して行なったアンケート調査結果を発表。なかなか興味ある結果であるため、帰るとき、このアンケート集計結果をいただいた。

午後２時１０分　花村さんの講演開始。講演途中で、先生が体育館の照明をつけたり消したりしていたので、事前に花村さんと打ち合わせておけばよかったと反省した。生徒がノートを取るときは室内は明るいのがよいし、画像を見るためには室内は暗い方がよい。

喫煙猿の映像を見ているとき、音声が小さく、体育館外の工事の音（ドドド・・・）が入ってきて聞き取りにくい。生徒たち全員は花村さんの講演に集中して聴いている。花村さんはゆっくり話すので、体育館いっぱいの生徒たちに話がよく浸透したのではないか。

気になったことは、「命がけの怖い病気」、これはおかしい。字引きで「命がけ」をひくと命を捨てる覚悟であること」と出ている。「我慢できるまで、息をとめて」という実験で、「苦しかった人は手をあげて」と挙手を求めたが、これは不必要。時間の無駄使い。「苦しかったでしょう。」と言ってで終われば良い。

全体の講演はよかったが、担当の先生から「最大限時間を延ばしても、３時５分まで」といわれて、花村さんに伝えたが、最後は時間切れで終わった感じ。

手術の映像には、生徒たちから悲鳴に近い声があがった。午後３時終了。

校長先生の話「自分はタバコを吸わない。」など。生徒の閉会の挨拶「学校保健委員会を終わります。」。最後に先生の注意「退場するときは、口にストローをくわえないで。」があった。床に落ちているストローを拾ってみると硬いストローが使われていた。

控室で聞くと「保護者にも傍聴を呼びかけたが、１名しか参加がなくてショックだった。」とのことである。同上のアンケート結果によると、７名の生徒に喫煙の経験があり、そのうち４名が親から喫煙を薦められた。」と聞いてショックであった。お母さんの中にも喫煙者がかなりいるようだ。

（２０）　西豊田小学校における喫煙防止講演

対象：６年生１８４人、教職員８人

補助者：打田　咲

薬学講座の一環として毎年薬剤師が持っている授業を、タバコにもらった感じ。学校薬剤師の伊藤さんも同席。市役所からも一人同席。

あいにく寒波が来た日で、とても寒く、あまり良い状態ではなかった。直前に腹話術用のマイクが切れてしまい、ケンチャン登場もうまくいかず、生徒たちを惹きつける力が弱いような気がした。

６年生といえども、腹話術は魅力的である。

講演、実習と体験、この組み合わせが長すぎても短かすぎてもよくない。笛を使ってパパッとやれたら、だらけないのかもしれない。最後の手術の場面は、６年生あたりなら受け止められるとも思った。しかし軽いものではない。

校長先生が、国で売っているものを敷地内禁煙にしないで、(喫煙所を) 一箇所作っていいのではないかとの発言に、みんなの意識がこんなものかとがっかりしたり納得したり。

講演後、ほかの人たちは校長室に行ったようだが、時間がないので失礼して先に帰った。

(２１)　１２月６日　　東豊田小学校における喫煙防止講演

対象：３～６年生４６４人、教職員２０人、保護者２人

補助者：久保田良夫　林　弘文

会場は体育館。父母が６名ほど後ろで傍聴。

午後２時　女生徒の指示で全員起立。男子生徒の挨拶「今日は学校保健委員会の日です。体や心の健康を考える日です。タバコを吸うと、どのような病気になるか、先生が楽しくわかりやすく教えてくれます。」

加藤先生が、講師と二人の補助者を紹介。

午後２時２分、花村さんの講演開始。人形「健康けんちゃん」の質問「大人になってタバコを吸おうと思っている子は？」に７，８人挙手。「大人になってタバコを吸わないと思う子は？」に大勢が挙手。「迷っている子は」に、１０人くらい挙手。

花村さんの言葉に対して最前列の３年生が講演の間、活発な反応をする。

(みんな口々に発言している。)

「タバコを吸うと、若い人ほど危ないということを覚えておいてください。」と、「覚えておいてください。」は不要ではないか。

子どもたちは床にノートをおいて熱心に書いている。先生が事前にノートを取るように指示したためであろうが、カーテンなどで体育館を暗くしているので、気になった。

「タバコを一生吸い続けると、９４万９０００本のタバコを吸うことになるが、このお金で、５０００CCのベンツが買える。みなさんは、タバコを吸うか、ベンツを買うか」の質問に、みんな「ベンツ」、「ベンツ」の合唱。

喫煙猿の動画がフリーズして動かなくなるが、すぐ直るが、音声が小さい。

花村さんの「怖いですね」の連発に、ゆっくり生徒に考えさせて、生徒自らが「怖い」と思うようになればよいのではないか、と思った。

アメリカのコマーシャルが多すぎる。音声が小さくて聞き取れず、かつ英語なので、よく理解できないのではないか。タバコを吸っている婦人の映像を見せると、格好よいと思う子どもがでるのではないかと気になる。赤ちゃんの喫煙している映像と、喉頭がんでのどに穴のあいた婦人の映像の２つ位見せればよいのではないか。

タバコの花を見せて「きれいな花には毒があるというのは本当ですね。」という発言も気になる。

時間がないので、肺気腫か喉頭がんか、１つにしぼって話すのが、集中できてよいのではないか。生徒たちは少し混乱したのではないか。喉頭がんでのどに穴の開いた婦人の画像をみて、子どもが「どうやって穴をあけるの？」などの質問が相次いで飛び出すが、３年生たちが、口々にいろいろなことを言っている。

あとから、女の校長先生「しつけができていなくて」と恐縮していた。

最後に校長先生は、最後の挨拶は「タバコは吸い始めたら、やめられなくなるのが一番怖い。」

女生徒の感想では、「一番印象に残ったのは、ストローによる実験だった。」

講演後、校長室で、校長先生、養護教諭の先生と話したとき、「保護者に参加を呼びかけたけれで、6名位しか参加がなかったこと、子どもが母親のタバコの臭いを衣服につけて登校してくることが、ショックだった。」と話してくれた。母親が喫煙して、その臭いを衣服につけてくる生徒がいることは、他の学校でも聞いた。

（このあたりから風邪をひき、補助者の担当を替えていただいた。）

（２２）　１２月７日　　服織西小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生８４人、教職員７人、保護者９人、他（薬剤師など）２人

補助者：植山利彦

市内中心地から、安西橋を渡り、羽鳥を抜け、トンネルをくぐって新間に向かう。講演前に昼食は評判の中華「味留香」の定食をとるが、混んでいて注文がなかなか届かず、少々あせる。

服織西小学校は新間団地の中にある。ここは香川会員と８月２０日に服織小学校の次にプレゼンテーションに出かけた学校。夏休みで、とても暑い時期だったことを、校長先生に会って顔を見たとき思い出した。

会場は体育館。学校のプロジェクターの性能がやや落ちているので、暗幕カーテンをびっしり張るが、どうも具合が悪いので、持参したプロジェクターに替えて準備完了。学校のスクリーンも小さいので、持参したスクリーンに替える。

今日は学校保健委員会の主催なので、１４時から児童の劇とアンケート結果の発表が舞台の上で演じられ、この流れの中で花村会員の講演が始まる。

会場が暗すぎるので途中から照明をつけ、タバコの害、病気などの映像からタバコ病の擬似体験、そしてまた映像へと滞りなく進行して終わる。

時間が足りないため、鉛筆２本と消しゴムの擬似体験の省略は残念。Ａ組とＢ組に分かれての無言の意思疎通の実験に時間がかかりすぎたためか。

このあと、また子どもの司会で劇が完成し、学校保健委員会の催しも完了。

ＰＴＡ会長、学校薬剤師、校長のそれぞれの感想、挨拶が続き、すべてが１５時１０分に完了。

父母の参観もあり、学校側の熱意が伺われた良い講演会であった。できれば、学校保健委員会の催しを土曜日に行なっていただくと、父親の出席もできて、ベターであろう。参観のお母さん方の感想も上々であった。

（２３）　１２月９日　　南部小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生３０６人、教職員１４人、保護者１５人

補助者：香川芳久

擬似体験が始まった以降、しばらくの間、騒がしくなった。与えられた時間が短く難しいとおもうが、腹話術をもう少し長くできないか。

生徒の学校保健委員会の発表が長く、講演時間にゆとりがなくなった。

講演内容からして、講演の正味時間に６０分は必要と感じた。

（２４）　１２月１３日　　清水和田島小学校における喫煙防止講演

対象：１～６年生４１人、教職員９人

補助者：植山利彦

補助者の林が風邪のため、急遽私がピンチヒッター。今冬一番の寒さとあって、山間地の道路氷結

を心配し、また朝の通勤渋滞も考慮し、８時２０分、少し早めに静岡を出発。雲１つ無く晴れ渡り、積雪の富士山がまぶしい。国１バイパスも清水鳥坂を過ぎると、いつもの通り渋滞。これを避けてバイパスを降り、下の側道を進み、無事興津インターチェンジから国道２５号線を北上。カーナビに和田島小学校を設定したので、気楽に走行。１０ｋｍ先の小学校近くで、別行の花村と合流。９時１３分、カーナビの予定より１分遅れて到着する。

１１月７日の井川中学校（１５名）に次いで、静岡市でもかなり奥の山間地。第２東名の超高架橋の下、浄水場のタンクを目前にする敷地に３階建ての校舎と体育館が建ち、ひなびたこじんまりした学校である。

人数も当初、中河内小学校、西河内小学校を含めて７３名の予定であったが、和田島小学校の１～６年生の４１名のみとなり、３，４年の教室で床にウレタンシートを敷いての講演。教室のため白いカーテンを閉めてもとても明るく、隣りの教室にあった移動式黒板２台をスクリーンの両脇に囲むように並べて対応する。

設営も終わり、外に出て和田島小学校の門の表札と校舎を撮影（協働パイロット事業の記録のため）。児童が教室に入りだす。最後に近くの中学校に、１，２時限を体験入学してきた６年生が戻ってきて参加。中川内小学校、西川内小学校の６年生も一緒に参加できればよかったと校長に話す。

[講演開始]　今日も時間的に余裕があることを望月養護教諭に確認したので、花村と事前に、最初と最後の児童への問いかけ（人形　けんちゃんとの会話）をキッチリやり、　タバコ病の擬似体験の内、鉛筆２本と消しゴムの箸使い、片手による靴下の着脱、ストロー使用による肺気腫体験、A、B組に分かれて言葉を使わないでの意思疎通の体験を実施することを打ち合わせる。映像もたっぷり見せられそう。

「気づきサトル君とよせばヨイコちゃん」の装置に説明から、「タバコの生涯費用１１８６万円と高級ベンツとどちらを選ぶか？」の問いかけの映像から、タバコの害、依存性、病気の映像へと進む。

小人数のため、活発な質問と応答で楽しい雰囲気のうちに終了。

「大人になってタバコを吸うか？」の問いかけに、迷っている児童が二人いた。児童代表のお礼の言葉と校長先生の挨拶で講演は終わる。

校長室でコーヒー談義のあと学校を出る。花村は５２号線を興津周り、植山は山間のトンネル２本を通り興津川から庵原へ抜けるルートを選んだが、おばかさんのカーナビのせいで行ったり戻ったりで往路より時間のかかった帰路となってしまった。

（２５）、（２６）　１２月１４日　　長田西小学校における喫煙防止講演

対象：５年生１４３人、教職員５人

対象：６年生１４３人、同上　５人

補助者：植山利彦

会場は視聴覚室（２F）

今日も昨日の清水区和田島小学校の場合に増して寒い。安倍川を越して５分ほどの丸子地区なので、定刻１時間１５分前に市内中心地を出発。安全のため校門は閉ざされているので、門を開けて入る。今回の講演会は私にとって、７回目の支援で最後に当たる。

会場の視聴覚室は暗幕カーテンもあり、日当たりも良く暖かい。午前中の授業なので時間的余裕が無いと担当の養護教諭に釘を刺される。

①５年生の講演

「気づきサトル君と止せばヨイコちゃん」のパネルから始まり定番通りの映像の後、タバコ病擬似体験が始まる。利き腕でない方の手で、鉛筆書き・箸の体験・靴下の脱着、ストロー呼吸の後、A,B 間の言葉なしの意思疎通が始まるが、時間がないため A からの一方通行のみ。最後の手術の場面も時間超過なので、肺がんと肺気腫のみで終了。その後、児童たちがいろいろ質問してきて、なかなか会場を去らなかったのが興味深かった。

②６年生の講演

最初に養護教諭が、５年生の講演内容がよかったことを紹介して開始。「気づきサトル君と止せばヨイコちゃん」の模型を６年生向けに詳しく説明。ニコチン依存猿の映像を少し省略し時間を稼ぐ。疑似体験も箸の箇所は、給食の時間に試してみるように話して省略。その代わりに、A,B 組の対話を双方から行なう。

花村会員はこの体験が好きなようだ。今回も４分遅れの１２時２４分に終了。

６年生は受講時の統率がとても良く、感心した。

（２７）　１２月１６日　　南藁科小学校における喫煙防止講演

対象：４～６年生７９人、教職員７人、保護者１０人

補助者：香川芳久

擬似体験が始まったあと、しばらくの間、騒がしくなった。与えられた時間が短く、腹話術がもう少し長くできないか。講演内容からして、講演時間を正味６０分は必要と感じた。

（２８）　１２月１９日　　清水浜田小学校における喫煙防止講演

対象：６年生４１人、教職員９人

補助者なし（林が風邪で休む）

会場は３F の視聴覚室。時間延長の可能な範囲はうかがっている。

例によって、まず禁煙実験パネルで喫煙者の汚染実態を伝えてから、ケンちゃんからの質問、パワーポイント映像による電気芝居を行なった。

前列の児童からタイムリーに、「肺がん」、「ニコチン中毒」などの単語が飛び出してきたので、これを有効にとらえて全体の集中が高まるように図った。授業の進行に弾みがついたように感じた。

５０名の範囲までなら、対話的な授業が可能であり、進め易いと感じた。

終了後、小道具の後片付けをしながら何人かの児童が質問にきたりして、集中的授業の余韻が感じられ、本事業のふさわしいと感じた。校長先生の談話からも、次回への期待が感じられてよかったと思う。

啓発活動の報告

上の講演とは別に、２回の啓発活動を静岡市子ども世話人連合会（略して市子連）で行なった。

（２９）　７月４日１９時～（３０分間）　第１回　市社協会館にて　　～１４名

（３０）　７月１１日２０時～２０時４５分　第２回　市社協会館にて　　～３５名